



鶏けいめい鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「キリストはその兄弟のために死んでくださったのです」

聖書(ローマ書14章15節)

牧師 河合裕志

これは大変に素晴らしい言葉には違いないけれど、どんな流れで言われたものだろう。「あなたの食べ物について兄弟が心を痛めるならば、あなたはもはや愛に従って歩んでいません。食べ物の中で兄弟を滅ぼしてはなりません」、そしてこの言葉に。

ここには一寸こみいった話がある。当時ローマの教会には信仰の強い人と弱い人がいたよう。信仰の強い人は何を食べてもよいと信じている、肉もぶどう酒もおいしく頂いている。信仰の弱い人は野菜だけを食べている。それならそれでいいようなものだけれど、困ったことに互いに軽蔑し合ったり、裁き合ったりしていた。

相手から自分のやり方について軽蔑される、裁かれる、断罪される、これはおもしろくない、深く傷つく。中には立ち直れないくらいのダメージを受ける人も。そして現にそういった人がいたのだろう。それを聞くにつけパウロは大変に心配した。そこでこのような言葉になっている。

食べ物の中で兄弟を滅ぼす、とは少々オーバーな感じがするけれど、実際そういうこともありなのだろう。肉を食べろ、と強要される、野菜だけにしろ、と言われる。これはその人の健康を害し、死活問題に発展しかねない。

そしてパウロはここにキリストを登場させる。その十字架の死を思い起こさせる。キリストの死は万人のための死である筈。キリストは全ての人が罪を赦され、永遠の命に至るために犠牲となり血を流し、死んだ。誰もキリストの死の対象。ただの一人も例外はない。誰のためにも神の子の宝血が流されている。そのことにより誰も彼も、彼女も尊い存在へと引上げられた。だから誰も自分なんかこの世にいらなくてもいい、などと考えるはいけない。それはキリストの折角の死を無駄にすることになる。

自分に気に入らない人がいる、あん畜生、と思われる人がいる、あんな奴、いなければどんなにか清々するか…。しかしここでストップ。パウロのこの言葉を思い出したらどうだろう。「キリストはその兄弟のために死んでくださったのです」。

その憎い兄弟・姉妹・親・子・夫・妻・学校友達・会社の同僚…この人達のためにも自分同様、キリストが犠牲となってくれている人だ、と思えたら、これはスゴイ。人を見る目が変わってくる。赦しの思いが起ってくる。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時